

3 議 案

第 1 号議案 議事録署名人選任の件

定款第 30 条第 2 項にもとづき、次の二名を選任する。

1

2

第 2 号議案 令和 6 年度事業実績の件

令和 6 年度（2024 年度）事業報告（案）

1. 全体評価まとめ

令和 6 年度はえどがわエコセンター（以下、「エコセンター」という。）の設立 20 周年にあたり、記念講演会を開催し、設立 20 周年記念誌をエコちゃんねるの特別号として発行した。改めてこの 20 年を振り返り、区民や事業者、行政が連携して取り組んでいくことがいかに重要であるか再確認するとともに、活動団体からのメッセージを設立 20 周年記念誌に掲載したことにより、会員の皆さんのさらなるモチベーションの向上に貢献することができた。

また、令和 6 年度は積極的に SNS を活用してイベントの周知に取り組み、えどがわエコセンター公式 LINE や X（旧 twitter）の運用を開始した。運用開始初年度のため、イベントへの参加者の急増には結びつかなかったものの、SNS の活用による PR 効果は確実に表れており、今後の集客への期待を持てる結果となった。

事業の実施状況を見ると、事業数は 151 件、参加者総数は 11,434 人であった。事業数は前年度と比べ微増し、参加者総数は前年度比で 5%以上増加した。令和 5 年度に比べ、脱炭素社会に向けた事業が活発化し、その事業への参加者も多いことから脱炭素社会への関心の高さがうかがえた。また、企画提案事業では、江戸川区が連携協定を結んでいる千葉県匝瑳市のソーラーシェアリング見学会を実施し、区民が脱炭素社会について知る機会を設けることができた。その他、篠崎公園ふれあいフェスティバルに初出展するなど、積極的に PR を行うことで、より多くの区民にエコセンターの取り組みを周知できた。

主要事業として、みどりのカーテンモニター講習会やフードドライブ常設回収、ラムサール条約登録湿地を PR する事業など、脱炭素社会・循環型社会・自然環境保全に関する事業を継続的に取り組み、「日本一のエコタウン」を目指した様々な活動を展開することができた。ただ、みどりのカーテン事業は参加者がほぼ横ばいであり、新規の参加者獲得への課題が残った。人材育成事業であるエコアクション講座では、テーマにあった講演会や見学会を開催し、環境に関する知識

を区民に提供することができ、地域における環境活動を実践する人材の拡大に繋がった。

環境学習を推進するモデル校であるグリーンプラン推進校では、令和5年度に比べ参加校が増加し、各学校の環境教育への関心の高さがうかがえた。また、出前授業の依頼は若干減少したものの、すすすくスクール放課後環境教育は増加に転じており、若い世代へ環境教育を行う機会が増加することで、環境への関心の高い社会を構築することができると考えられる。

一方でエコカンパニーえどがわでは、登録事業所が減少傾向にあり、コロナ禍から脱出しているものの、依然として企業にとって厳しい状況が続いていることがうかがえ、登録によるメリットの追加やレポートの内容、実施方法が課題となっている。

2. 次年度へ向けた重点課題・対策

- (1) エコセンターの活動に携わっていただく方々の固定化や高齢化が進むなか、みどりのカーテンづくりやラムサール条約登録湿地に関する活動をはじめとする企画提案事業やエコアクション講座、地域まつり等のイベントにおいて、若年層や現役世代などさまざまな世代に向けて環境に関する興味を呼び起こすための工夫をする必要がある。また、SNSを活用することによって更なる情報発信を行い、長期的に活動をしてもらえる若年層や現役世代の皆さんの掘り起こしを目指す。特に公式LINEアカウントの友だち登録を呼びかける活動を強化していく。
- (2) 葛西海浜公園のラムサール条約湿地の認知度が依然として十分ではないことから、それらを更に高めるためのPR活動を活発化させる。東なぎさクリーン作戦や葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー、船上観察会などにおいて他団体や事業者、教育関係との連携を強め、今まで以上に区民に周知できるように取り組んでいく。また、若年層や現役世代に葛西の豊かな海を知ってもらい、将来に向け守り引き継いでいく担い手となってもらえるように取り組んでいく。
- (3) みどりのカーテンづくりに関しては、既存のモニター講習会がこれまで一定の役割を担ってきたが、参加者の固定化や高齢化が進んでいることが課題であるため、活動する方々や団体の幅を更に広げる必要がある。その方策として、モニター講習会を引き続き実施する一方で、公式LINEアカウントの登録者に対してゴーヤの苗をプレゼントする事業を新たに実施する。また、障害者施設との連携を新たに築き、施設の職員はもとより利用者やその家族にも参加してもらうことにより、より多くの方々にみどりのカーテンづくりに携わってもらえるよう工夫する。
- (4) エコアクション講座について、令和7年度においては気候変動適応計画課との連携をより密にし、具体的には、環境フェアとエコアクション講座を同時開催することでより多くの集客を目指し、同時に、テーマや講演者の選定にあたりしっかりとした検討を行う。また、区の気候変動適応計画課が雇用している専門知識を有する気象防災アドバイザーによる講演が好評であることから、本年度も温暖化の影響で昨今多発する異常気象や災害についての解説や対策について講演をしてもらう。
- (5) フードドライブの常設回収については、6年目を迎え安定した回収量を維持している状況であるが、物価高騰の影響を受けて回収量自体は前年度に比べて減少している。フードドライブの回収量が減ることは、家庭内における食品ロスの削減の観点からは決して悪いことではないが、区が令和7年度から常設回収を開始するにあたり、回収基準の見直し等を課題のひとつと考え、それらを区と連携しながら検討し適切な事業運営につとめる。また、区の統計に基づく

と区内で発生する食品ロス量が増加傾向にあるため、30・10運動をはじめとする食品ロス対策に関連する各種事業を引き続き精力的に実施していく。

- (6) 本年度の10月から予定されている区の製品プラスチックの回収事業に合わせ、循環型社会を目指すためのマイバッグ推進運動を引き続き実施していく。ただし、マイバッグの使用が多くの人たちに浸透してきていることから、マイバッグの推進を含めた資源循環に関わる新たな取り組みを模索していく。また、(株)HOYAと連携し、使い捨てコンタクトレンズの空ケースの回収を実施し、循環型社会実現への一助となすとともに、より多くの方々がエコセンターに足を運ぶためのきっかけの一つとする。
- (7) 前項の「全体評価まとめ」でも触れているが、エコカンパニーえどがわの登録事業所が減少傾向にあることを大きな課題と捉えている。減少の最大の理由は江戸川区の融資制度のルール変更に伴うものだが、そもそも制度そのものの魅力の更なる創出が必要である。東京商工会議所江戸川支部等と連携することによって保険加入等のメリットを打ち出し、制度の魅力やメリットをPRしていく。

3. 事業評価

活動項目		令和5年度	令和6年度	増減
事業	事業数(件)	147	151	4
	参加者数(人)	10,807	11,434	627
会員等	会員数(個人・団体)	489	473	△16
	もったいない運動参加者数(※累計人数)	150,176	157,582	7,406
財務	区補助金実績(千円)	33,048	29,536	△3,512
	民間等助成金実績(千円)	1,407	1,590	183

4. 科目別事業評価

活動項目	事業数(件)	参加者数(人)
(1) 環境教育・環境学習の推進事業	29	1,397
(2) 人材育成事業	7	314
(3) 区民・事業者・行政との交流・連携推進事業	81	8,758
(4) 情報の提供及び支援事業	1	17
(5) 自然環境の保全と活用	33	948
計	151	11,434

(1) 環境教育・環境学習の推進事業

○結果・評価

- ①令和6年度のグリーンプラン推進校では、昨年度に比べ5校増加し、30校（中学校5校、小学校25校）が参加し、4校において出前授業を行った。SDGs学習やみどりのカーテン、グリーンアドベンチャー等、各学校の特色を活かした多様な環境学習となったが、全体的に自然環境に関する取り組みが多く、児童でも取り組みやすい分野であるとうかがえる。
- ②出前授業の依頼は12件、参加生徒数は889人となった。昨年度と比べて実施校数はわずかに減っているが、学校の規模の関係で参加者の増減が大きく変化することがある。
- ③すくすくスクール放課後環境教育は、昨年度と比べ増加し、17校508名が参加した。参加者数は増え続けているので、体験型プログラムは低学年児童への環境学習のきっかけとして需要が高いと考えられる。

○次年度への課題・対策

- ①グリーンプラン推進校は広く周知されるようになっているが中学校の参加が少ない。今後も引き続き中学校に向けたPRを強化していく。
- ②出前授業が区内の小中学校に周知されるようになったが、実態としては十分に利用されていない。より多くの学校で活用してもらうため、PRを強化し、かつプログラム内容の拡充をはかる。
- ③放課後環境教育については、更に多くの学校で参加してもらえよう周知・PRしていきたい。また、担い手の高齢化の課題があり、継続実施できるよう実施方法を引き続き研究していく。

(1-1) 学校等環境学習支援

項 目	計 画	実 績
環境学習支援（グリーンプラン推進校）	30校	30校（累計250校）
小中学校出前授業（総合学習等）	20回/1,500人	6校 12回/889人
子ども放課後環境教育（すくすくスクール等）	15回/450人	17回/508人

(2) 人材育成事業

○結果・評価

- ①令和6年度は計画していたエコアクション講座全7講座を実施することができた。脱炭素社会や資源循環、自然環境保全の3つのテーマにあった講演会や見学会などを実施し、環境に関心を持つきっかけを区民に提供でき、環境活動を実践する人材の拡大に繋げることができた。
- ②第2回エコアクション講座では、昨年度に引き続き気候変動適応計画課と連携し、気象防災アドバイザーによる温暖化と気象をテーマとした講演会を行った。昨今の猛暑や豪雨といった異常気象や江戸川区が海拔ゼロメートル地帯であることから、他人事ではなく自分事として捉えている区民が多いことがうかがえた。
- ③第5回エコアクション講座では、設立20周年記念として気象予報士の森田正光氏を招き、「温暖化と生態系」をテーマに講演会を開催した。メディアでの出演も多く、幅広い世代から知名度が高かったことから、多くの参加者が集まり、講演中もアシスタントと掛け合いをしながら進行し、楽しく気象の話聞くことができ、大変好評であった。

④第6回エコアクション講座は、水中カメラマンの鍵井靖章氏をお迎えしてプラスチックと海洋汚染についての講演会を行い、国内外の水中の生きものやごみの写真を通して、海洋ごみ問題の状況を解説してもらった。参加者の中にはダイビングをする人もおり、実際に海中を見ている方々だからこそ関心があり、この問題の大きさを、身をもって感じていることがうかがえた。

○次年度への課題・対策

- ①次年度のエコアクション講座では、今まで以上の集客力や発信力のある著名人を選定し、区民のニーズを考慮しつつ、講座の回数よりも内容を充実させることを検討していく。また、人気の高い講座は継続しつつ、プログラムのブラッシュアップを図っていくとともに、若い世代にも関心を持ってもらえるような人選やプログラムの構成を検討していく。
- ②バスや屋形船による見学会は人気が高いため、講演会等の経費も考慮しつつ、以前実施した「ムジナモ」の自生地である羽生市の見学会のような、夏休みに親子が参加でき、自由研究にも活用できるような見学会の実施を増やすことも検討していく。

(2-1) エコアクション講座

項 目	計 画	実 績
エコアクション講座	7回/250人	7回/314人

(2-2) 講演会

項 目	計 画	実 績
環境講演会	150人	4回/238人

(3) 区民・事業者・行政の交流・連携の推進事業

○結果・評価

- ①令和6年度の地域イベントは荒天などによる中止はなく、予定していたイベントには全て出展し、さらに、初出展となる篠崎ふれあいフェスティバルにも参加し、区民へエコセンターをPRする場がひろがった。また、各地域イベントにおいて公式LINEへの友達登録を呼びかけ、エコセンター事業のPRを拡大することができた。
- ②みどりのカーテンモニター講習会では、参加者数が203名となり、前年度とほぼ同水準の参加者数だった。近年の猛暑の影響により、今まで以上にみどりのカーテンへの関心が高まり、自主的にみどりのカーテンに取り組む区民が増加したことが考えられる。区民対象ではあるものの参加者数を増やすため、視点を変えて事業所や区内施設へPRを行う必要がある。
- ③フードドライブ常設回収は、5年目を迎え昨年度から比較すると回収量は約6割にとどまっている。未利用食品の回収量が減少することは、食品ロス削減の観点からは良い傾向として捉えることができる。引き続き、区民の食品ロスへの関心を高める事業を展開していく。
- ④エコカンパニーえどがわは、退会事業所が16件に上り、減少傾向が続いており、令和6年度は新規の登録事業所がなく、登録件数は277件となった。コロナ禍を脱出したものの、昨今の物価高騰や物流の2024年問題等が影響し、依然として企業の経営状況は厳しく、環境と経営の両立の難しさがうかがえる。令和3年から区の斡旋融資制度がSDGsに重点を置く内容に変更となり、登録へ向けてのハードルが大きくなったこともその要因と考えられることから、今後

向けて制度のありかたを含めて検討を行い、より適切な形での実施を検討する必要がある。

○次年度への課題・対策

- ①みどりのカーテンづくりの参加者数を増やすためにモニター講習会を引き続きするとともに、公式LINEに登録していただいた方へのゴーヤの苗をプレゼントしたり、障害者施設等においてみどりのカーテンづくりの取り組みを支援するなど、新たな活動を通して普及への努力を継続していく。
- ②フードドライブの常設回収において、未利用食品の回収量が減少傾向にあり、食品ロス削減に繋がっているものの、フードバンク5団体への未利用食品の提供量が減少するため、フードバンクでも新たな提供先を開拓してもらうように伝えていく。また、瓶詰の未利用食品は回収していなかったが、その取り扱いについて区の方針を考慮し検討していく。
- ③エコカンパニーえどがわについて、登録事業所が減少傾向にあることから、新規の登録事業所の獲得が課題となっている。また、退会事業所を減少させ継続してもらうためのメリット等の仕組みを検討していく。さらに、エコカンパニーのレポートを含む内容について、精査し見直しを行っていく。

(3-1) もったいない運動えどがわの推進

項 目	計 画	実 績
もったいない運動登録者の拡大	156,000 人	157,582 人
環境フェア	1,000 人	1,168 人
地域イベントへの参加	14 回/8,450 人	14 回/7,406 人
もりあげ隊（ボランティア参加者数）	実施	実施

(3-2) 省エネ・新エネルギーの推進

項 目	計 画	実 績
家庭の省エネ診断・説明会	7 回/25 人	3 回/5 人
環境に配慮したエコライフ講座、講習会等	10 回/80 人	6 回/97 人
みどりのカーテンの普及啓発	13 回/300 人	講習会等 12 回/203 件 西葛西図書館 26 人 環境フェア 57 人 フォトコンテスト 1 回 交流会 9 人
キャンドルナイト（スタンド作り）	2 回/40 人	5 回/156 人

(3-3) 3R（リデュース・リユース・リサイクル）の推進

項 目	計 画	実 績
マイバッグキャンペーン	春・秋 2 回	春・秋 2 回
フードドライブ常設回収	実施	291 件/6,516 個
3Rに関する講座・講習会等	15 回/200 人	19 回/186 人
エコセンターおもちゃの病院	12 回/400 人	12 回/467 人

(3-4) 事業者の取り組み推進・支援

項 目	計 画	実 績
エコカンパニーえどがわの事業者の登録	295 件	累計 277 件 (登録件数 0 件)
ece 登録事業者への省エネルギー相談	実施	実施

(3-5) 商店（街・会）やスーパーのエコ活動支援

項 目	計 画	実 績
商店街主催イベントへの支援	実施	実施

(3-6) イベント等への参加

項 目	計 画	実 績
産業ときめきフェア	100 人	100 人
東部交通公園イベント参加	—	38 人

(3-7) チャレンジ・ザ・ドリーム（中学生職場体験）

項 目	計 画	実 績
チャレンジ・ザ・ドリーム (中学生職場体験)	3 回/10 人	3 回/8 人

(4) 情報の提供及び支援事業

○結果・評価

- ①公式 LINE や X の運用開始により SNS を活用した事業の PR が活発化した。公式 LINE では約 650 件の友達登録があり、エコアクション講座等のエコセンター事業や気候変動適応計画課との連携によるお知らせなどを配信し、広報えどがわやホームページでは周知しきれない情報もダイレクトに伝えることができた。
- ②情報紙「エコちゃんねる」では、20 周年記念特別号の発行により、20 年の歴史を振り返るとともに現在活発に活動している団体の皆さんからのメッセージを掲載し、団体活動のモチベーションアップに貢献できた。また、昨年度の反省を活かし、編集打合せを行い発行の時期やテーマを年度当初に決めることで、計画通りに発行することができた。
- ③会員向け日帰りバス研修会において、「足利学校」と「あしかがフラワーパーク」の見学を実施した。日本遺産に認定されている日本最古の学び舎である足利学校を見学し、教育・生涯学習の原点について学ぶことができ、また、あしかがフラワーパークの見学を通じて、会員間の交流や親睦を深めることができた。
- ④他区への情報提供として、港区議及び千代田区議による視察を受入れ、エコセンターの組織や各事業について、他区でも取り入れることのできる事業についての提案などを行った。他区からの視察依頼があることは、エコセンターへ関心があることがうかがえ評価できた。

○次年度への課題・対策

- ①公式 LINE による PR を活用しているが、友達登録にはブロックするユーザーも含まれており、ブロックされないような有益な情報提供を行うよう工夫していく。また、より多くの区民に友達登録をしてもらうため、ノベルティグッズの発案やメリットについて検討していく。
- ②現状では各イベントの申し込みを電話で対応することがほとんどであるが、DX の取り組みの一つとして、ホームページのイベントページに表示できる申し込みフォームを活用し、ネットからの申し込みを普及させていけるよう検討していく。
- ③令和 6 年度末の会員数は 473 件であり、昨年度から 16 件減少しており、エコカンパニーえどがわの営利団体の退会がその要因となっている。経年で見ると減少傾向にあるため、SNS の活用や会員特典などの検討により会員獲得を進めていく。

(4-1) 情報の発信と提供

項 目	計 画	実 績
情報紙「エコちゃんねる」の発行	4 回	62, 63, 64, 65 号
エコセンターパンフレットの活用	実施	実施
ホームページの運営管理	実施	実施
リーフレットの活用	実施	実施
多目的ルームの活用	実施	実施

(4-2) 他団体との連携・活動支援

項 目	計 画	実 績
江戸川総合人生大学への講師派遣	2 回	2 回
東京湾再生官民連携フォーラム等との連携	実施	実施

(4-3) 相談業務事業

項 目	計 画	実 績
会員等からの団体運営や事業等の相談	実施	実施

(4-4) 会員の拡大

項 目	計 画	実 績
会員向けの講演会・交流会の実施	実施	17 人
あらゆる機会を捉えた PR	実施	実施

(5) 自然環境の保全と活用

○結果・評価

- ①令和6年度の東なぎさクリーン作戦は、昨年度回数を3回に増やし開催したものの、昨今の異常気象により猛暑の中での活動であったため、熱中症防止の観点から通常通りの開催である春と秋の年2回実施した。また、底生生物を採取することに適さない潮位であったが、参加者の安全面を考慮し、東なぎさへ船で渡ること適した潮位で実施した。東なぎさの清掃活動においては、東京都港湾局によってヨシが刈られていたため、例年ヨシが生い茂っていた箇所のごみも回収することができ、東なぎさ保全の観点からは一歩前進したと言える。
- ②ラムサール条約登録湿地における区民の認知度が低いため、「葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー」や「船上観察会」を実施し、より多くの区民に向けてそのPRを行っている。「葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー」では、親子を対象にラムサール条約登録湿地の魅力を伝えることを目的として実施しているが、早々に雨予報が出たこともあり、直前キャンセルが相次いだ結果、参加者は昨年度より減少した。
- ③2月に実施した「船上観察会」では初の試みとして、江戸川区自然動物園と連携し動物園で飼育中の貴重な水鳥であるクロツラヘラサギについて飼育員の方に解説をしてもらった。実際にラムサール条約登録湿地である葛西海浜公園でも観察することのできる水鳥であるため、参加者にも関心を持っていただけたと考えられる。

○次年度への課題・対策

- ①東なぎさクリーン作戦について、管理者によってヨシが刈られており清掃活動がしやすくなり、より多くのごみを回収することができたが、ヨシ刈りを定期的に行っているかが課題である。また、東なぎさへ渡る際の参加者の安全面を考慮し、以前から意見の出ている簡易的な栈橋を設置し、潮位や足場の悪さを気にすることなく事業が実施できるように東京都に対して引き続き働きかけていく必要がある。
- ②葛西海浜公園がラムサール条約に登録されて6年が経過したが、区民の認知度は高いものではなく、多くの方は知る手段がないと考えられる。エコセンターでもラムサール条約登録湿地のPRに力を入れて多くの事業を行っているものの、特に親子向けのイベントへの参加者数が伸び悩んでいる。子どもでも参加しやすくかつ雨天時でも楽しめるような内容に充実させるなど、プログラムをブラッシュアップして参加者の増加を目指す。

(5-1) 自然復元・再生事業

項 目	計 画	実 績
河川や海岸のクリーン作戦を通じた自然環境の復元	11回/700人	8回/601人
絶滅種や生物多様性に関する啓発 (ムジナモ・ビオトープ)	12回/120人	10回/118人
東なぎさ生物調査	1回/20人	1回/10人

(5-2) 自然体験・自然観察会

項 目	計 画	実 績
自然体験や自然観察会等の実施	18回/260人	13回/175人
一之江境川親水公園自然観察会	100人	44人

(5-3) ラムサール条約の登録・生物多様性の保全

項 目	計 画	実 績
ラムサール条約登録湿地（葛西海浜公園）のワイズユース及びPR	実施	実施
関係機関・関係団体・地域との連携	実施	実施
ラムサール条約登録湿地を船から見学する船上観察会（再掲）	1回/53人	40人
葛西海浜・臨海公園 魅力発見・探検ツアー（再掲）	1回/30人	8人